



ウェーブロックホールディングス株式会社

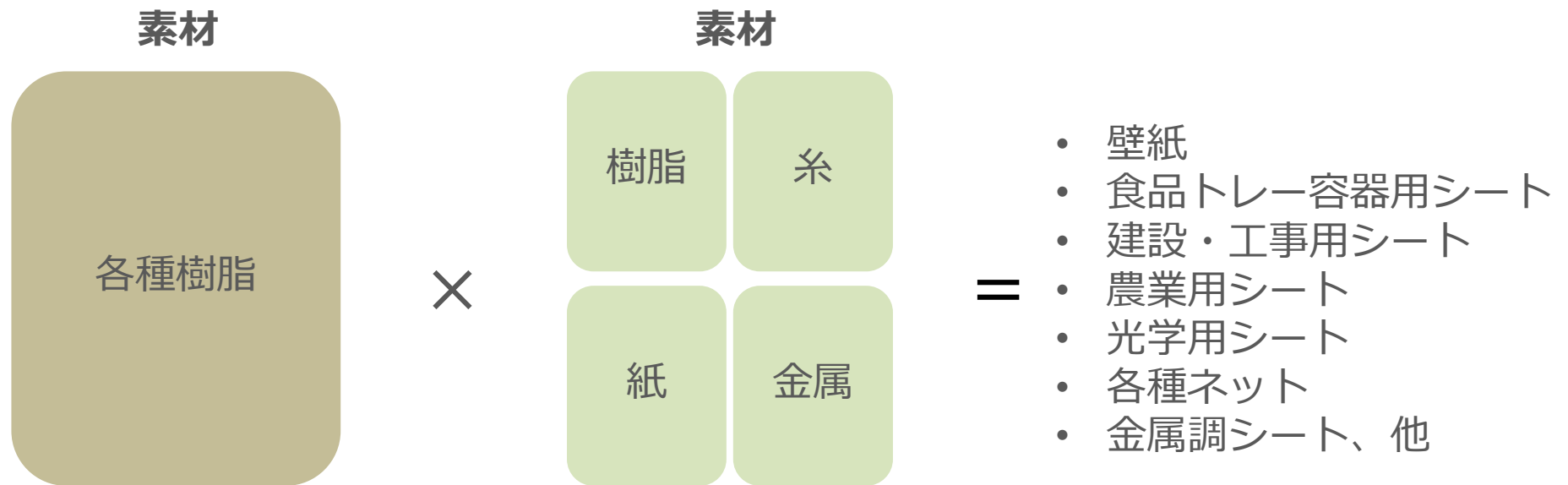
説明資料

2019年 12月

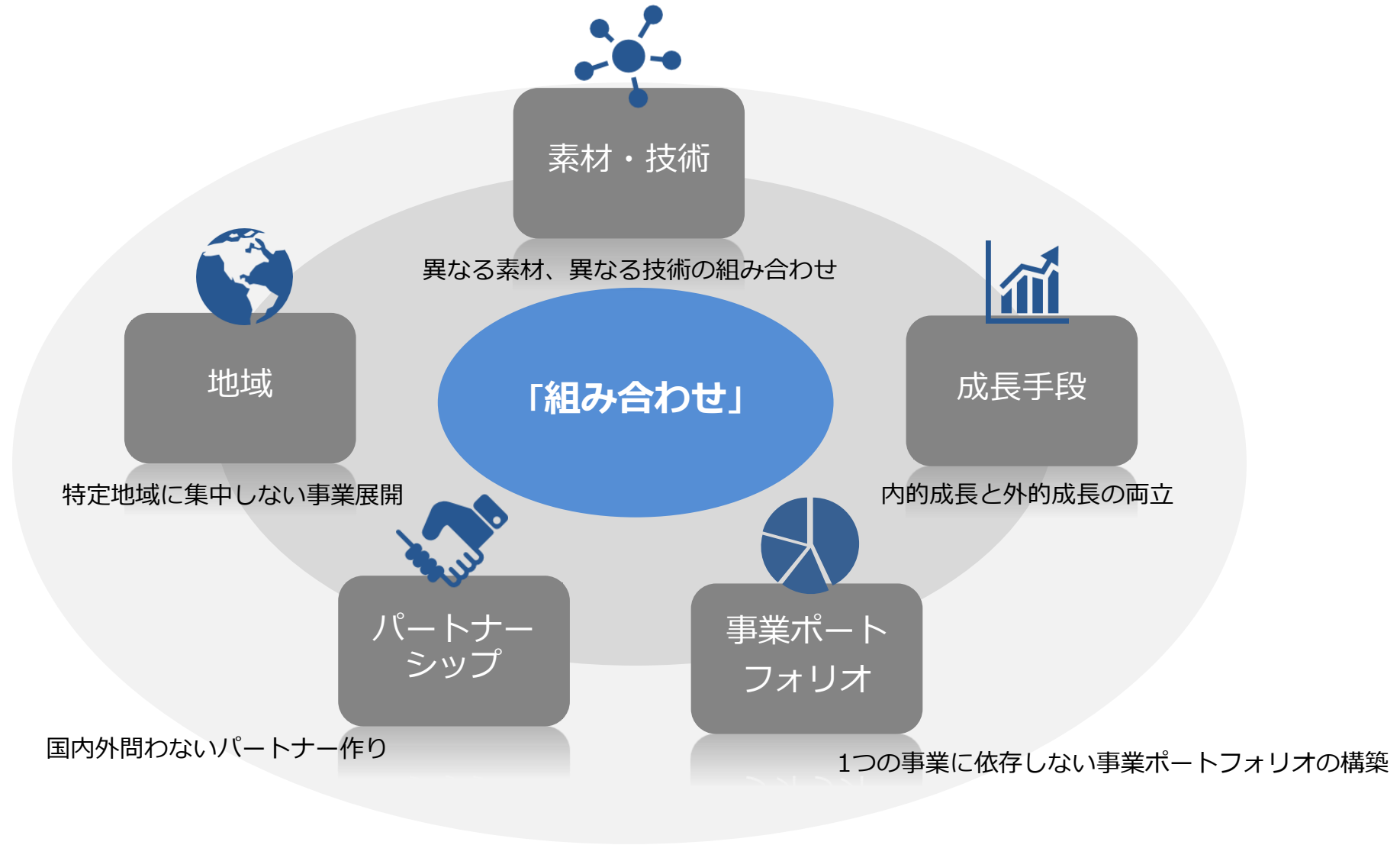
証券コード:7940 東証一部上場

商号	ウェーブロックホールディングス株式会社
本店所在地	東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー13F
設立	1964年6月
資本金	21.8億円
発行済株式総数	11,120,538株
上場証券取引所	東証一部
代表者	代表取締役 兼 執行役員社長 木根 渕純
従業員	(連結)722人 2019年9月末時点
決算期	3月末
主要経営指標	(2019年3月期 実績) 売上高 282億円 営業利益 15億円 親会社株主に帰属する当期純利益 14億円 (2020年3月期 予想) 売上高 290億円 営業利益 18億円 親会社株主に帰属する当期純利益 12億円

異なる特徴の素材を「**組み合わせ**」することで、付加価値を提供する**樹脂加工メーカー**



異なる特徴を複数 **「組み合わせ」** することで新たな価値を創造



グループ売上高 290億円 営業利益 18億円

インテリア事業

- 住宅用壁紙製品等の製造・販売
- 国内マーケットシェアNo.1

売上高 96億円
営業利益 8.3億円



壁紙



壁紙ベース

マテリアルソリューション事業

- 樹脂製網製品/樹脂製フィルム、シート等の製造・販売
- 防虫網国内シェアNo.1の他、各種製品で高いマーケットシェア

売上高 163億円
営業利益 10.1億円



工事用
仮設シート



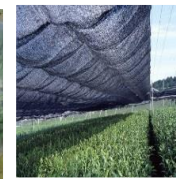
防煙垂れ壁



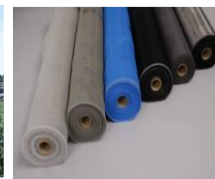
食品トレー容器用
シート



農業用ネット



遮光ネット



住宅用防虫網

アトバンストテクノロジー事業

- 金属調加飾フィルム、高機能多層シート等の製造・販売
- 次世代の高付加価値製品を提供

売上高 38億円
営業利益 4.3億円



自動車外装パーツ



自動車内装パーツ

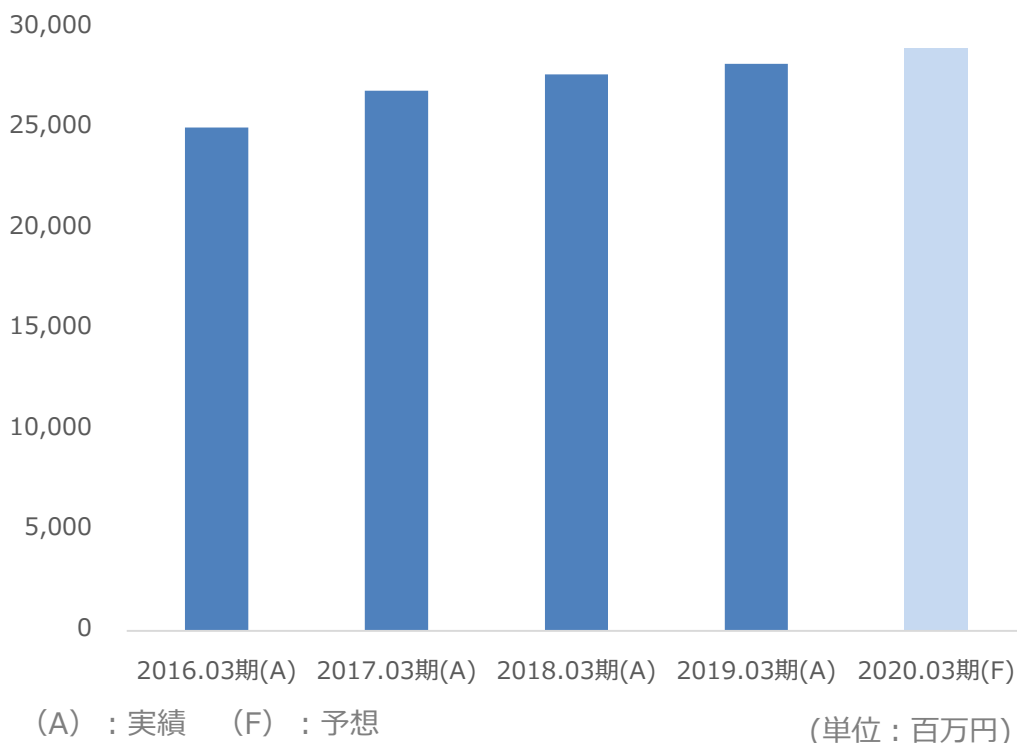


スマートフォン筐体、カーナビ全面版等

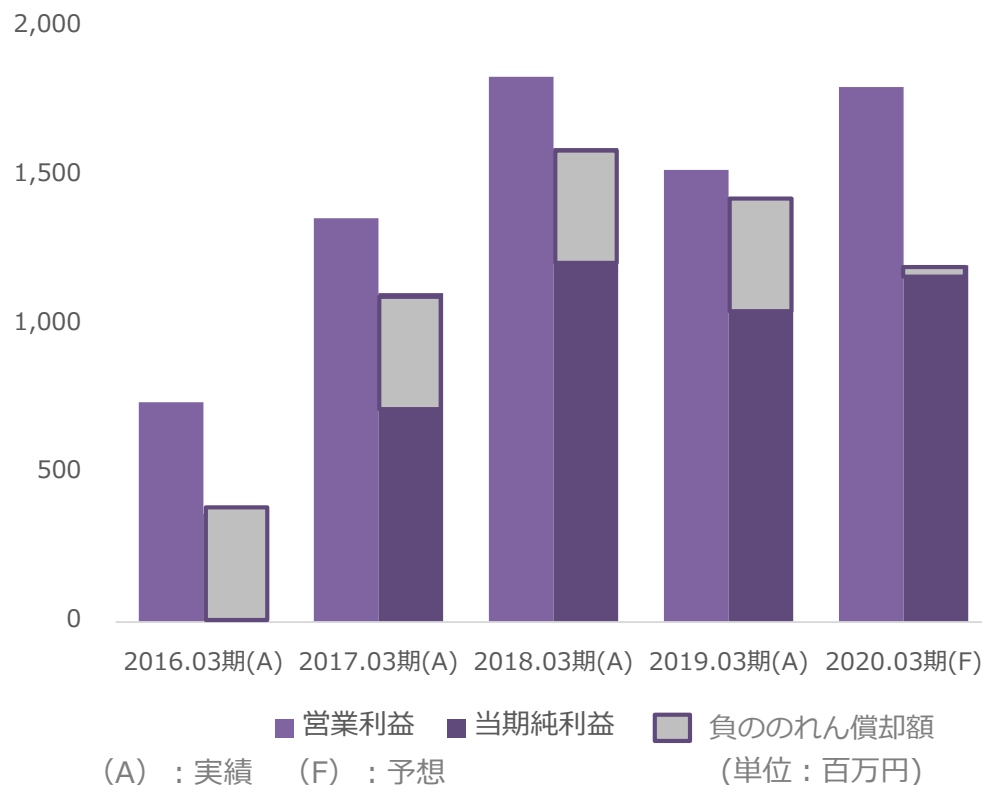
※売上高、営業利益は2020年3月期予想。セグメントの売上高・営業利益はセグメント間の取引を含む
※2019年4月より、旧産業資材・包材事業および旧編織事業を統合し、「マテリアルソリューション事業」へ

- 売上高は過去最高を更新
- 営業利益が大幅回復したにも関わらず当期純利益は減少。これまで10年にわたり、営業外収益として年間388百万円を計上してきた負ののれんの償却が、本年第2四半期で終了したことによるもの（負ののれんの償却額：前期388百万円、今期18百万円）

売上高



営業利益・当期純利益



各事業について



インテリア

マテリアル
ソリューション

アドバンス
テクノロジー

(株)サンゲツとの業務資本提携 「仕組み」による販売強化

壁紙事業のバリューチェーン

ウェーブロックグループ、
大日本印刷、凸版印刷、アキレス、オカモト等
(壁紙メーカー)

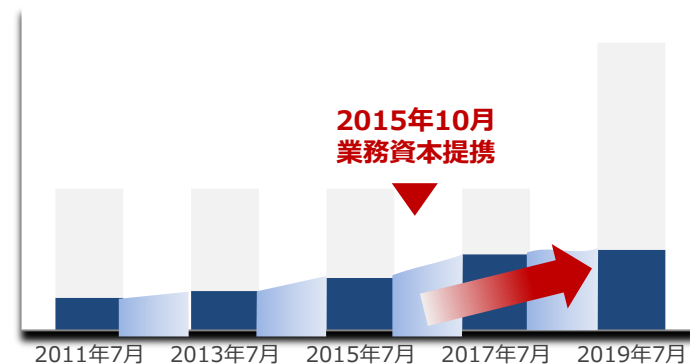
サンゲツ、リリカラ、ルノン等
(壁紙ブランドメーカー)

工務店、デベロッパー、
インテリアデザイナー、一般消費者等
(壁紙ユーザー)



サンゲツの量産見本帳における当社壁紙シェア

- バリューチェーン上の効率化が生まれるパートナーシップ
- 壁紙市場の過半シェアを占めるブランドメーカー（株）サンゲツと中長期的視点を共有することで、設備投資等の中長期戦略の実行リスクを低減



インテリア

マテリアル
ソリューション

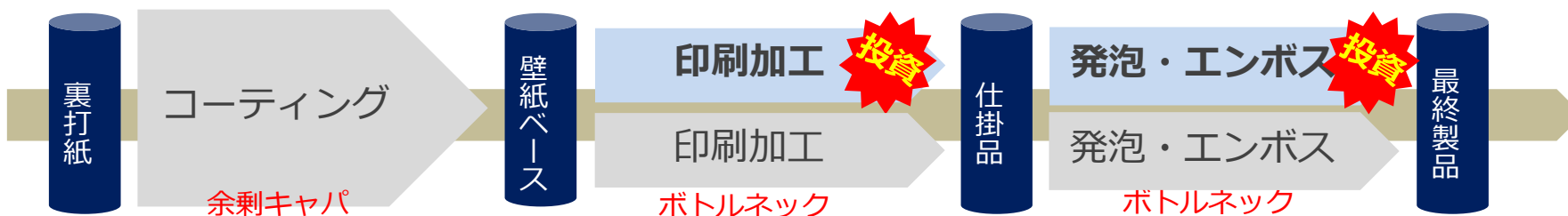
アドバンスト
テクノロジー

壁紙工場の統合によるコスト競争力アップ

- 壁紙メーカーのサクラポリマー（株）のグループ化（1998年）
- 壁紙メーカーのヤマト化学工業（株）のグループ化（2006年）
- 日本ウェーブロックの古河工場壁紙コーティングライン、サクラポリマーの佐倉工場と一関第1・第2工場、ヤマト化学工業の成田工場を、量産品の生産に適した高速コーティングラインを保有する一関工場と、非量産品の生産に適した成田工場の2か所に集約（2017年2月完了）

製造工程のボトルネック部分の増強により、更なるコスト競争力アップ

- 製造のボトルネックを解消し、グループの壁紙生産のキャパシティを約30%増強（2017年2月完了）





高シェアな樹脂製ネット製品を多数保有

製品例

張替用防虫網、園芸用ネット

遮光網、防風網、防虫網

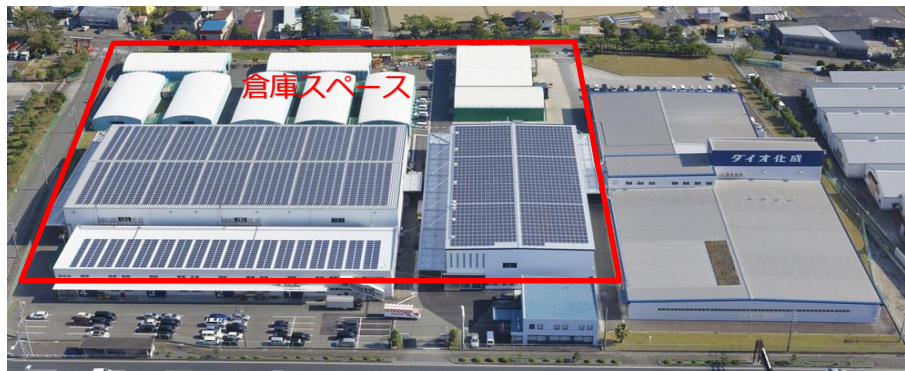
建設用ネット

- ネットは一見付加価値の低い製品に見えるが、虫、動物を介した病気対策や減農薬農業等に役に立つ製品
- 日本国内は成熟した市場だが、海外市場での成長が期待できる分野

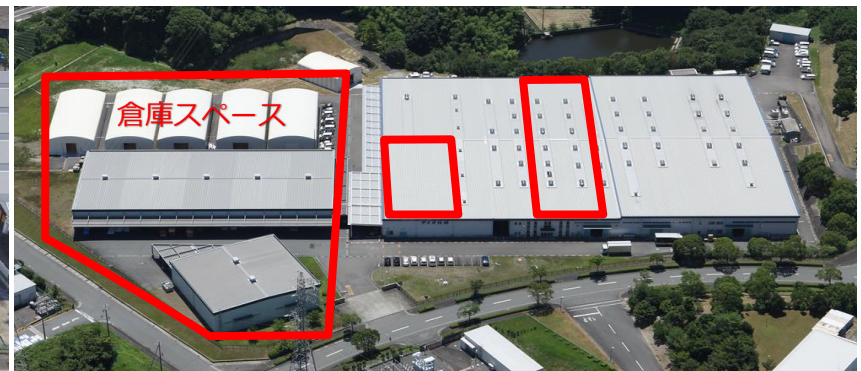


ユニークな供給体制の「仕組み」を武器として、ホームセンターとの取引を拡大

- 防虫網、園芸用ネット、遮光網等は、①売上の季節変動が大きく、②その年の天候によって需要が大きく変化する、ホームセンター等にとっては、在庫管理の難しい商材
- 工場の2/3を倉庫とすることで、生産は通年で平準化しながら、品切れを起こさず、かつ、シーズン終了時点での返品を受け入れが可能に



袋井工場（1964年設立 約35,868㎡）

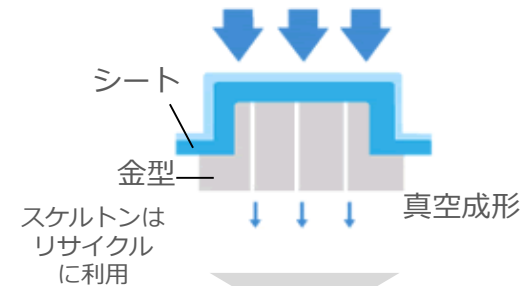


掛川工場（1998年設立 約49,981㎡）

食品トレー容器用シート



ヨーグルト容器等



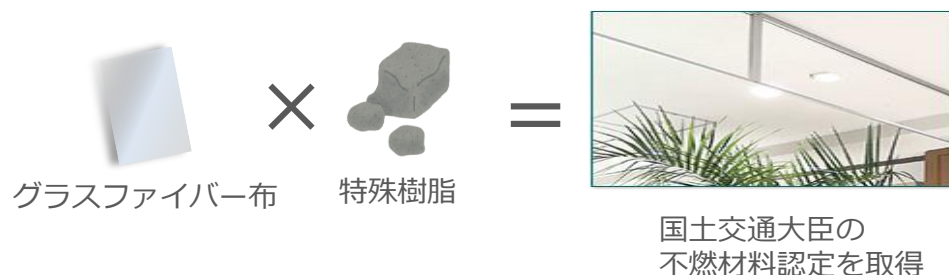
食品トレー等



- バージン材料とリサイクル材料の「組み合わせ」

- シート生産と成型加工の「組み合わせ」

防煙垂れ壁用「高透明不燃シート」



美観を保ちつつ震災時の安全性を向上する樹脂製防煙垂れ幕

- ✓ ガラスの約10分の1の軽さで、かつ、割れない
- ✓ 他社品より高い全光線透過率と透明性

工場のシートシャッター「門番」



- 製品というハードと、設計や施工などのソフトやサービスを「組み合わせ」、ソリューションとして提供

アドバンステクノロジー事業の事業分野

金属調加飾フィルム

- 自動車内装・外装
- 電化製品
- スーツケース等の雑貨向け

光学用を中心とした特殊単層・多層シート

- スマートフォン前面板・筐体
- 車のナビゲーションシステムのヘッドアップディスプレイ

貼布薬向け特殊コーティングと印刷

- 伸縮性のある不織布へのアンカー処理、印刷、撥水処理

輸入商材の販売

- 開封テープ 他

(株) ウェーブロック・アドバンスト・テクノロジーで製造する金属調加飾フィルムの特徴



① 電波透過性能

- 衝突被害軽減ブレーキ義務化の流れの中、衝突被害軽減システム用センサー部分に、電波を通さないメッキや金属に替わる代替素材として、電波透過性に優れた金属蒸着を利用した金属調フィルムの需要増大

レーダー波を阻害しないセンターエンブレム



② 製造時の環境負荷の低減と防錆性能

- 製造工程での環境負荷が大きい六価クロムメッキの代替として三価クロムメッキへのシフトが図られるが、耐腐食性能不足や高コストのために浸透せず
→金属調加飾フィルムの成長余地



③ 光透過性&カラーなどの意匠性

- 車内デザインの「リビング化」、車外デザインの差別化のため、車内・車外のデザインでの「光」と「カラー」のニーズが増大



インテリア

マテリアル
ソリューション

アドバンスト
テクノロジー

(株) シャインテクノで製造する特殊単層・多層シート of 主な用途



① 自動車関連用途

- ナビゲーション・システム向けシート
- ヘッド・アップ・ディスプレイ向けシート

日米欧の主要自動車メーカーのナビゲーション用ディスプレイ等で採用数が着実に増加



② スマートフォン用途

- 従来、スマートフォン前面板のガラス代替品としての採用を目指していたが、5Gの登場もあり、スマートフォンの素材が金属から電波に影響しにくいガラスや樹脂に移行
- これに伴い、スマートフォン筐体向けの用途が急拡大。製造キャパがタイトな状況に



(株) ウェーブブロック・アドバンスト・テクノロジーと (株) シャインテクノの統合

- 2020年4月1日付けで両社を統合（2019年12月16日に開示）

**統合により、両社の持つ強みを融合させ、リソースの有効活用を図ること
で、今後の成長が期待出来る自動車分野等での一層の事業拡大を目指す**

- 具体的には、ウェーブブロックアドバンストテクノロジーの国内外の販売ネットワークを活用したシャインテクノ製品の本格販売や、ウェーブブロックアドバンストテクノロジーの次世代加飾フィルム用の特殊フィルムのシャインテクノにおける開発等に取り組む
- 特に自動車の内装デザインは、ディスプレイの一体化および大型化が益々進んでおり、2社統合による差別化、ビジネスチャンスの拡大に期待

- 売上高は**過去最高**を更新
- 営業利益が大幅回復したにもかかわらず、経常利益および当期純利益が減少した原因は、負ののれんの償却（営業外利益に計上）が第2四半期で終了したため（前期：388百万円、今期：18百万円）

（単位：百万円）

	2017年 3月期 (実績)	前期比	2018年 3月期 (実績)	前期比	2019年 3月期 (実績)	前期比	2020年 3月期 (予想)	前期比	2020年 3月期 Q2 累計 (実績)	前期比	進捗率
売上高	26,886	+7.3%	27,702	+3.0%	28,229	+1.9%	29,000	+2.7%	14,903	+3.8%	51.4%
営業利益	1,359	+83.6%	1,834	+34.9%	1,521	△17.1%	1,800	+18.3%	1,004	+16.5%	55.8%
経常利益	1,696	+87.5%	2,144	+26.4%	1,943	△9.4%	1,780	△8.4%	985	△9.0%	55.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,107	+202.9%	1,594	+44.0%	1,429	△10.4%	1,200	△16.0%	694	△12.7%	57.9%

セグメント別 売上高・営業利益

売上高・営業利益ともに、前期および期初計画に対し順調

(単位：百万円)

	2019年3月期 通期 (実績)	2020年3月期 通期 (予想)	増減率	2020年3月期 Q2累計 (実績)	前期比	進捗率
売上高	28,229	29,000	+2.7%	14,903	+3.8%	51.4%
インテリア	9,112	9,600	+5.4%	4,687	+6.6%	48.8%
マテリアルソリューション (旧産業資材・包材事業および旧編織事業)	16,261	16,300	+0.2%	8,697	+0.7%	53.4%
アドバンステクノロジー	3,572	3,800	+6.4%	1,819	+6.9%	47.9%
その他	△ 716	△ 700		△ 300		
営業利益	1,521	1,800	+18.3%	1,004	+16.5%	55.8%
インテリア	724	830	+14.6%	381	+24.9%	46.0%
マテリアルソリューション (旧産業資材・包材事業および旧編織事業)	919	1,010	+9.8%	742	+23.6%	73.6%
アドバンステクノロジー	306	430	+40.2%	126	△18.9%	29.5%
その他	△ 429	△ 470		△ 247		

基本方針

- 配当性向※：20%から30%を目安に、安定的な配当を実行、維持する

2020年3月期 配当

- 第2四半期末、期末でそれぞれ1株あたり15円(通期30円)
- 負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向※は24.4%
- 配当利回り**3.5%** (2019年12月18日現在)

	1株あたり配当金(円)		
	第2四半期末(実績)	期 末(予想)	合 計(予想)
2020年3月期	15円	15円	30円

【参考】

	負ののれん償却額控除後の 当期純利益	年間配当額	負ののれん償却額の 影響を考慮した 配当性向※
2018年3月期(実績)	1,206百万円	28円	23.1%
2019年3月期(実績)	1,040百万円	28円	26.2%
2020年3月期(予想)	1,181百万円	30円	24.4%

※ 負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向

$$= \text{配当総額} / (\text{親会社株主に帰属する当期純利益} - \text{負ののれん償却額})$$

POINT1

「組み合わせ」で新たな価値創造を

POINT2

「仕組み」で継続的な成長を

POINT3

No. 1 事業の集合体で安定的な収益を

POINT4

パラダイムシフトへのタイムリーな対応で差別化を

- 樹脂依存度の低減
- ソリューション提供（ハード・ソフト・サービス）
- 環境対応

APPENDIX

- 2017年4月10日、東証二部再上場
- 2018年4月10日、東証一部指定



本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。